

# 外国人介護人財の確保と育成 定着へ向けた取り組み

社会福祉法人三葉会 特別養護老人ホーム手城福助苑

岡崎 孝洋

## 概要

- ① 法人紹介
- ② 外国人技能実習生受け入れの経緯
- ③ 外国人技能実習生受け入れに伴う取り組み
- ④ 今後の採用計画



## 特別養護老人ホーム 手城福助苑

- 開設年月日 平成17年10月1日 設立  
主体 社会福祉法人 三葉会
- 住所 福山市手城町3-10-13

### ● 特養利用定員 52名

- 他事業 ショートステイ 18名  
デイサービス 35名  
居宅介護支援事業
- 職員 介護職 44人  
看護職 7人  
理学療法士 3人  
技能実習生 4人

### ● 特徴

全室個室のユニット型  
1ユニット8~9人  
1フロア2ユニット  
全8ユニット（特養・短期）

### ● 環境

市内中心地に立地し環境がいい

### ● 理念

日々、健康で明るく清潔に

## 技能実習生受け入れまでの経緯

- 2016年・・・三葉会のこれからのサービス展開の為に、外国人技能実習生の受け入れを検討し、理事長・施設長にてインドネシアへの視察を決定
- 2017年4月・・・理事長・施設長にてインドネシアへ視察を行う。技能実習生を目指して日本語学校で学習をする生徒の姿勢・技能実習に懸ける思いに感銘を受ける
- 当時理事長は、外国人技能実習生の受け入れに抵抗があったが、生徒たちと実際に話し・触れ合い今後の三葉会に外国人技能実習生が必要だと感じ、受け入れを決断する

# 外国人技能実習生受け入れの流れ

2016年：理事長・施設長が今後の介護サービスの展開の為に、技能実習生受け入れを検討



2017年：インドネシア視察・面接



2019年：インドネシア人（女性）2名の受け入れを開始



2019年：再度インドネシア視察・面接。新たに2名の受け入れを決定



2020年：インドネシア人（女性）2名の受け入れを開始

## 受け入れの準備体制の確保

### 「教育・指導」についての取り組み

- ①技能実習制度についての研修会を実施
- ②インドネシアの文化についての研修会を実施 （宗教・食文化・生活習慣・国民性）
- ③教育担当を取り決め、担当を中心に外部研修へ参加→職員研修を実施し理解の深化
- ④マニュアルの整備（翻訳したもの）



# 受け入れ準備体制の確保

## 「事務手続き」についての取り組み

- ①寮の整備、生活必需品の準備（すぐ生活出来る環境）
- ※Wi-Fiを設置し、携帯電話を使用できるように対応
- ②地域住人への挨拶周り
- ※インドネシア人技能実習生が寮に入る事を伝え、緊急時連絡先を連絡
- ③労働管理各種手続き
- ※管理団体と協力しながら調整
- ④ご家族への周知（広報誌・家族会の開催）



## 2019年4月 実習生2名受け入れ開始



## 入職後に業務で困ったこと

- **①日本語が上手く伝わらない**
  - ※方言を使わない配慮・言い方を変える・必要に応じて翻訳アプリの使用・毎日の勉強会
- **②利用者とのコミュニケーションが難しい**
  - ※常に職員と行動し、職員が間に入り試行回数をこなす
- **③指導スタッフの指示・指導がバラツキが出る**
  - ※マニュアルにない部分が特に困った
- **④業務記録を記入する事が難しい**
  - ※個別に記録指導を継続し解決



## 日常生活支援で困った事

- **①買い物に単独で行くのが難しかった**
  - ※月に1回、担当職員と買い物・必要時に担当職員と買い物
- **②日本の気候**
  - ※インドネシアとの気候の違い（特に冬）暖房器具の準備・設置を行った
- **③体調不良時の病院受診**
  - ※担当職員と都度同行受診
- **④携帯電話は持っていたが、通話が出来ない**
  - ※社宅にWi-Fiを設置し、LINEでの連絡。チャットワークを活用した連絡手段の確保

# 定着支援について

- ①本人と定期的な面談を実施し、「悩み事」「困り事」「不安」のケアを実施
- ②日本の文化、生活ルールを都度説明
- ③担当職員と面談を実施し、業務内での状態を確認し細かい調整を実施
- ④日本の文化に触れてもらう事で、私生活を楽しんで頂けるよう支援
  - ・近場での食事会の実施
  - ・日帰り旅行の実施「スキー場・倉敷・四国・山口」など多数
  - ・職員と趣味の共有「現在は登山にハマってます」
  - ・施設内行事の際に、着物の着用など・・・



# 職員の変化（入職前）

## 「外国人技能実習生受け入れ前」

- ①日本語が通じるのだろうか
- ②上手く指導出来るだろうか
- ③他国の人と上手く関われるだろうか（利用者様とも）
- ④細かなトラブルが発生するのではないか
- ⑤自分たちの負担が増えてしまうのではないか

# 職員の変化（入職後）

## 「外国人技能実習生受け入れ後」

- ①とにかく真面目で一生懸命な姿勢に、自らの姿勢を改める
- ※業務外でも自己学習を続け、スキルを向上し続ける実習生の姿勢に職員も感銘を受ける
- ②指導方法を工夫し、指導スキルの向上
- ※マニュアルでカバー出来ない部分なども工夫をし、どう伝えれば解りやすいかを各自が考え始め、個人のスキル・指導力が向上した
- ③技能実習生との交流を通して職員間の関係性の向上
- ※日本の文化・観光地への案内・食事会を職員が企画し、部署を超えた交流が始まった



## 再度外国人技能実習生の受け入れを決断

- 外国人技能実習生を受け入れ7カ月が経過し、施設・職員に良い影響が確認できた為、
- 2019年11月・・・デイサービスを除くすべての部署に外国人技能実習生を配置すべく、再度インドネシアを視察・面接を行う
- 予定では、2020年4月に配属予定であったが、新型コロナウイルス感染症流行による影響で予定が遅れ、2020年12月に新たにインドネシア人技能実習生2名の受け入れを開始する



# 実習生が実習生を指導する

- 実習生を段階的に受け入れた事により、先に実習を開始した実習生は日本の生活・施設での業務に慣れてきており、新たな実習生の指導の要となった。
- 特に細かい日本語の通訳、日本の文化の説明、施設業務の説明、私生活での注意点などの指導が円滑に実施でき、大きなトラブルもなく早期に日本での生活に移行することが出来た。
- 再受け入れにより同じ国の実習生が4名になり、4人で外出や勉強会を行うなど私生活においても楽しみが多くなったと本人たちは喜んでいました。

# 介護福祉士取得に向けた取り組み

- **①実務者研修参加費用の施設負担**
  - ※研修参加日は勤務として参加して頂く
  - **②業務内、業務外での試験対策時間の確保**
  - ※日本人職員による試験対策講座・模擬試験の実施などによる支援
  - ※業務時間内における、学習時間の提供
  - **③試験当日の会場への送迎**
- ・・・結果・・・
- 2023年度・・・2名受験 **(内1名合格)**
  - 2024年度・・・2名受験予定



# 技能実習生と働いて得た事

- ①実習生は丁寧な接遇・指導されたことを確実に遂行する姿勢を持って、利用者様と良好な関係を築いた。この姿を見た職員は、介護は「心と心」で繋がる物であると再認識した。
- ②実習生に「指導出来るように」「負けないように」と各職員がスキル向上に取り組んだ
- ③実習生の丁寧な対応を見た施設・職員の倫理観・接遇の向上に繋がった
- ④実習生との交流を通じて職員間の交流が増え、関係性の向上に繋がった



# 今後の計画

- ①すべての部署に1名以上外国人技能実習生を配置し続ける予定
- ※採用時は現地視察・オンライン面談などを行い、実習生が安心して来日出来るように支援する
- ②先輩実習生が新たに迎える実習生の指導・補助を行える環境の整備
- ③外国人技能実習生の寮を整備し、快適な生活を支援
- ④外国人技能実習生が働きやすい・生活しやすいよう支援を続け定着を目指す

ご清聴ありがとうございました

